



広報  
NO.1221

# やちよ

2019年(平成31年)

1月1日号

●八千代の人口 19万8,750人(-24人) 男 9万8,328人(-6人) 女 10万422人(-18人) ●八千代の世帯 8万8,448世帯(+59世帯) 11月末現在。( )内は前月比

## 「千代に八千代に発展し続ける街」

先人たちの想いを未来につないで



▲村上の神楽。現在舞われている9座のうちの恵比寿の舞。1月15日には、神主が大釜の湯をかぶる「湯立て神事」も行われます

市内では多くの遺跡が見つかり、出土した奈良・平安期の墨書土器は3,700点以上。昔から生活に適していたことが分かります。毎年1月と10月に七百餘所神社に奉納される村上の神楽も、江戸時代初期から受け継がれてきたと言われています。長い歴史の中で「八千代」という名前はまだ新しく、昭和29年に大和田町と睦村が合併した際に、公募で決まりました。「8,000年」を表し縁起が良く、千代に八千代に発展し続ける街になるようにという、当時の人たちの願いが込められています。今日から、また新しい年がスタートしました。今年も先人たちの想いを、未来に向かってつなげていきます。

### 今号の紙面から

- ◆市議会議員選挙の結果……………2
- ◆1月13日(日)に成人式を開催……………3
- ◆小・中学校の体育施設を開放します……………3
- ◆篤行者表彰式を行いました……………4
- ◆使って便利な情報ツール……………5

### 新年の「あじさ」

「子どもが第一」の市政を大きな柱として



八千代市長  
服部 友則

皆様明けましておめでとうございます。

市民の皆様のお力添えにより、昨年一年間、市政運営を務めることができましたことに、心より感謝申し上げます。

就任以来、私は本市をより良くしたいという強い思いを持って、邁進してまいりました。その中でも「子どもが第一」の市政を大きな柱とし、待機児童の解消に向け保育施設の整備を進め200名余りの受け入れ増を図りました。

また、児童・生徒が新たなICTを活用し興味を持って意欲的に学習ができるよう、市内の全公立小・中学校に、電子黒板、タブレット端末とテレビ会議システムを導入いたしました。早いもので本年は、市長としての折り返し点となりますことから、なお一層気が引き締まる思いでございます。

4月からは、13年ぶりに部局の再編を伴う機構改革を行い、より分かりやすい組織にするともに、私の目指す施策の実現を迅速かつ円滑に進めてまいります。

また、さらなる待機児童対策として、新たに民間の認可保育園を5園開園いたします。このことにより360名の定員拡大を図りながら、学童保育所の受け入れ拡大にも努めてまいります。猛暑対策である小・中学校のエアコン導入につきましても、早期対応に向け引き続き関係機関と協議を重ねてまいります。

近年は各地で大規模な災害が発生しております。安心安全な生活を確保するために、現在、市域東側の消防拠点となる東消防署庁舎建設や、八千代1号幹線の浸水対策として調整池の整備を進めております。耐震基準を満たしていない市庁舎につきましても、災害発生時に十分機能できるものにしておく必要があると考えております。

さて、来年2020年には、オリンピック・パラリンピック東京大会が開催されます。本市にも日本代表を目指す選手の皆様がおります。一人ひとりのご活躍を心から応援すると同時に、胸を張ってふるさとである八千代市のことを語れるよう、私も「緑豊かな環境で安心して子育てができる八千代市」を基本に、市政運営に誠心誠意取り組んでまいります。本年もどうぞよろしくお願いいたします。